



京林大だより

就業に向けたキャップストーン研修を実施



伐木・造材や林業機械の運転など様々な実務研修を受ける林大生

伐倒や造材の際のチェーンソー操作のコツを教わり勉強になった。

研修後の 学生の声

学校で学んだ制度などを実践を通して理解することができた。

伐採の仕事は山だけでなく市街地にもあると実感した。

次の作業を予測して動くことの必要性と難しさを学んだ。

現場作業の一連の流れを体験し、自分の将来像が少しずつはっきりしてきた。

京林大の2年生が受講するキャップストーン研修は、実践的な能力の養成と、実社会への適応力の向上のために行います。例年、府内外の事業体のご協力のもと、9月～10月にかけて1人あたり2事業体に1か月間ずつ赴き、現場作業や事務作業などの実務研修を受けます。

本年は、18事業体・団体等（森林組合、林業事業体、林産事業体、林業関連団体、地方自治体など）にご協力いただき、実務に必要な技術や知識を学ぶことができました。

指導者の皆様には、学生に対し、時に粘り強く、熱心にご指導いただきました。この場をお借りして心より御礼申し上げます。

研修を通じて、学生たちは自らの課題に気づき、残りの学校生活で就業に向けて取り組むべきことが明確になりました。研修終了後の報告会にて、2年生が研修で得た成果を1・2年生に向けて発表し、1年生は次年度の研修受講に向けた意識を高め、2年生は課題の共有や就職先の検討につなげることができました。

「第10回林大祭」開催

日頃お世話になっている地域の皆様への感謝の気持ちを込めて、「第10回林大祭」を開催いたします！

大人気のクリスマスリース作り教室やロープアスレチックをはじめ、学生が山で伐採した木を使った丸太イスやカッティングボードなどの木工品の販売も行います。

京林大の授業や実習で指導いただいている京丹波森林組合の「木のたまごづくり」もクリスマスリース教室のお隣で体験できます。

林大卒業生の同窓会や近隣からの飲食ブース出店、キッチンカーもお楽しみに！

みなさまのご来場をお待ちしております。

- ・日時：12月7日（日）10時～15時半
- ・場所：京都府立林業大学校
- ・内容：模擬店、木工品販売、体験ブースほか



クリスマスリース



カッティングボード

今月の授業参観

「四つ葉型濃密実習」（1年生）

2年生がCS研修（第2クール）で不在の10月、1年生対象に「四つ葉型濃密実習」を実施しました。

本実習では、1年生12名が4班に分かれ、4つの科目を週替わりで3日ずつ受講します。少人数だからこそできる濃密な指導により、これまで学んできた森林・林業の知識や技術をさらに深めることができました。（学生と先生の仲も深まったかも？）

- ①森林科学実習…植生調査、樹幹解析
- ②森林計画演習…測量、プロット調査、解析
- ③森林作業道作設実習…重機による作業道開設
- ④森林計測実習2…ドローン実地講習及び試験



重機を操縦して、3段の盛土に一定勾配で登れるように道を作ります
(左：森林作業道作設実習)



樹幹解析のため、スギを伐採し、2mごとの輪切り、円盤を採取してその年輪を計測します
(右：森林科学実習)

校長室より



校長 大下 起代

2年生は9月・10月の2か月間、就業体験を通じて、より実践的な知識と技術を身に付け、実社会への適応力を養うためのキャップストーン(CS)研修に取り組みました。学校での学びは「受け身」ですが、仕事は成果を出すことが目的であり、主体的な行動と結果への責任が求められます。例えば、チェーンソーによる伐木作業は、学校での実習では、基礎的な操作と安全対策を徹底して学びますが、CS研修では、学んだ技術や知識を実際の現場で試し、不足している点を確認しながら課題を見つけ、その解決策を探ることで、より実践的な能力を磨いていきます。研修先では、卒業後に社会人としてスムーズに作業に取り組めるよう、技術、作業の段取り、コミュニケーションの取り方などを丁寧にご指導いただき、心より感謝申し上げます。

例年11月には、本校と長野県林業大学校、岐阜県立森林文化アカデミーの3校が、平成27年に締結した協定に基づき、技術者養成教育の充実・向上を目的とした交流会と伐木選手権を持ち回りで開催しています。今年は11月20日(木)から21日(金)の2日間、岐阜県立森林文化アカデミーで開催され、京林大からは2年生が選手として参加します。

伐木選手権では、丸太の薄切りや枝払い、伐倒技術の正確さと安全性などについて、JLC(日本伐木チャンピオンシップ)ルールに準拠して競技が行われます。他校は選手権に向けた事前練習に力を入れていますが、京林大は競技のための特別練習ではなく、CS研修や学校の授業で身に付けた技術と安全意識をもって大会に臨みます。

昨年8月には、育林・素材生産作業に関する知識と技能を評価する国家検定制度「技能検定」がスタートしました。この検定は、林業従事者の技能向上、社会的・経済的地位の向上、そして労働災害の減少に貢献することを目的としており、実技試験では主にチェーンソーの技術力が評価されます。林業技術力の重要性はますます高まっています。岐阜県立森林文化アカデミーでの選手権に参加する京林大の学生たちへの応援をよろしくお願ひいたします。